

～週刊オン★ステージ新聞「バレエとオペラ」関連企画 VII～

薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 86

## 《マルコ・スパダ》

会期／2021年8月31日(火)～12月21日(火)

(※休館日はwebでご確認ください)

連載／岸純信(オペラ研究家)

協力／渡辺真弓(オン★ステージ新聞編集長/舞踊評論家)

企画・構成／関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

現在、「週刊オン★ステージ新聞」(青林堂)にて連載中の「バレエとオペラ」関連企画として、常設展をシリーズ開催いたします。本展では、「薄井憲二バレエ・コレクション」から図版提供した記事と共に、実際の資料をご覧ください。第7弾は《マルコ・スパダ》(2020年10月30日号「バレエとオペラ」第18回)より。どうぞお楽しみください。

### -----「バレエとオペラ」第18回 岸純信 ----- オペラがバレエを捨り出す オペールの《マルコ・スパダ》

オペールの全3幕のオペラ《マルコ・スパダ》(1852/パリ、オペラ・コミック座)の「実態」を知るファン層は皆無に等しい。9分弱の序曲だけはたまに演奏されるが、本作の舞台上演はおろか、アリア一曲の歌唱例すら聴いたこともないのである。筆者が内容を確認する際も、先述の序曲の音源以外は、手元にある楽譜から音符を脳内で鳴らしつつ、時には自らピアノで弾いて確かめるのみなのだ。

しかし、オペールの全3幕のバレエ『マルコ・スパダ』(1857/パリ・オペラ座)は、バレエ愛好者層にはかなり知られた名前なのだそう。筆者の手元にもボリショイ収録の映像があり(2014)、ほかにも、ヌレエフ主演のDVDが注目されているようだ。

ところで、筆者は長年、オペラとバレエの楽曲は、ほぼ共通のものだろうと勝手に想像していた。しかし、今回、オペラの楽譜とバレエの映像を突き合わせてみたところ、全くと言ってよいほど音楽が違っていたのである。実際、オペラ由来のメロディをバレエで探し出すのは非常に難しく、筆者がすぐ気づいたのは、バレエ第1幕のサンピエトリ嬢とペピネッリのパ・ド・ドゥの中間部に、オペラ第2幕の女侯爵(オペラ内のサンピエトリの肩書)のアリエットが使われているという一例ぐらい。実のところ、バレエの音楽はオペラ《マルコ・スパダ》とは殆ど関係なく、オペールがそれまでに書いた他のオペラ十作から、ドラマと踊りに適した旋律を自由に配しつつ、大胆にアレンジして繋げたものなのである。(後略)

### 【編集部註】

バレエ『マルコ・スパダあるいは盗賊の娘』を振付けたのは、『パキータ』や『海賊』などの振付で知られるパリ・オペラ座メートル・ド・バレエのジョゼフ・マジリエである。アンジェラにカロリーナ・ロザティ、サンピエトリ嬢にアマリア・フェラリスと、二大プリマ(共にイタリア人)が同じ舞台上立ったのはオペラ座史上初めての画期的な出来事であった。

まもなくこのバレエも、オペラ座のレパートリーから消えてしまうが、20世紀になって、『ラ・シルフィード』等の復活上演の実績のあるピエール・ラコットが、振付の痕跡が全く残っていないところから再現を試み、1981年ローマ歌劇場で上演を果たす。(後略)

### 出展資料(アンティークプリント/フランス/1850～60年代)

- ◆ AP-252-2 カロリーナ・ロザティ『海賊』メドレー  
(『マルコ・スパダあるいは盗賊の娘』ではアンジェラ役)
- ◆ AP-252-3 アマリア・フェラリス『エルフ』  
(『マルコ・スパダあるいは盗賊の娘』ではサンピエトリ嬢役)
- ◆ AP-252-4・5・8・11 『マルコ・スパダ』



### 参考映像

- ◆ 『マルコ・スパダ』ボリショイ・バレエ団(2014)DVD予告編  
Marco Spada | David Hallberg & Evgenia Obraztsova | Bolshoi Ballet 2014  
(DVD / Blu-ray trailer)

<https://youtu.be/MafwmtoXWdc>

- ◆ 『マルコ・スパダ』ローマ歌劇場(1981)全編  
Auber - Marco Spada (Ballet)

<https://youtu.be/pSBZJ4oMI1E>

(※ 作品名について、オペラは《 》、バレエは『 』で表記しております)



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用